

市長冒頭発言

「地域の安全、安心な暮らしを市民とともに考える会（意見交換会）」

皆様、本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。
本日は、自衛隊と米海兵隊との実動訓練について、私がなぜ受け入れる判断に至ったのか、その経緯と私の考えを直接皆様にお話しさせていただきたく、この場を設けさせていただきました。

令和8年度米海兵隊との実動訓練、通称「レゾリュート・ドラゴン26」(RD26)の実施については、先月5月21日に沖縄防衛局より説明を受けました。

本市での訓練は、令和8年6月25日から29日までの5日間で実施される予定です。この訓練は、日米共同による災害対処訓練として、共同調整所の運営、共同衛生、そして航空機による物資補給・輸送訓練が主な内容と伺っております。共同衛生訓練においては、陸上自衛隊V-22、いわゆるオスプレイが宮古空港を使用するとの説明を受けております。

特にオスプレイの運用につきましては、市民の皆様が抱かれる安全性への懸念やご不安を、私も深く理解しております。国内・海外での事故はもとより、与那国での自衛隊オスプレイの事故は、まだ記憶に新しいことと存じます。

防衛局からは、これらの原因究明と対策が十分に取られているとの説明を受け、その前提のもとで訓練は実施されるものの認識ですが、市民の皆様の不安を払拭するため、本市からも、安全管理の徹底、そして何よりも市街地上空の飛行自粛を強く求めました。

訓練が実施される際には、私自身の目でしっかりと見届け、その安全性を確認してまいります。

南西諸島を取り巻く安全保障環境は、現在、一層厳しさを増していると認識しております。中国公船による領海侵犯や尖閣諸島周辺での漁業者の皆様の操業困難など、周辺国の軍事動向は活発化し、北朝鮮による弾道ミサイル発射、台湾周辺での緊張状態、ロシアの動きなど、総合的な脅威に対してより現実的な備えが必要であると強く認識しています。皆様は日頃、防衛白書を隅々まで読む機会は少ないと存じますが、私自身は毎年、国防予算や兵器の状況などについて確認をしております。防衛白書で示されるような、周辺国の国防予算の急増や兵器保有状況の現状も踏まえれば、沖縄が地理的に国防上の最前線に位置することは現実問題として受け止めなければいけないと考えております。

有事はあってはならないことですが、現実を直視し、それに備えていくことも、市長として、深く考えなければなりません。

このような状況下において、日米双方による訓練の実施については、日

本の防衛、すなわち自国防衛と、大規模災害時の輸送・救助活動という観点から、必要最低限の範囲において、その必要性を理解しているところです。一方、米軍単独による市内での訓練については、引き続き自粛を求めるという立場に変わりはありません。

立て続けに米軍との共同訓練が実施されることについて、皆様の中には、不安を感じていらっしゃる方も少なくないことと存じます。私としては、市民の皆様の生命・財産、そして平穏な生活を守ることが最優先であると強く考えており、国に対しては、安全保障環境の変化について、直接市民に情報を提供する機会を設けるよう強く申し入れを行いました。

国からは、早い段階での開催を検討するとの回答を得ています。「平和」は願うだけで実現するものではなく、現実を直視し、抑止力や危機管理能力を高めて初めて、地域住民の安全と安心が得られるというのが、市長としての正直な思いです。

国防は国の専管事項であり、説明責任も国にあります。しかし、だからといって、市長として何もしなくて良い、あるいは何もできないということでは決してありません。私自身は、平和を心から願うからこそ、市民の皆様一人ひとりが、私達を取り巻く南西諸島、特に宮古島市の現実を直視し、理解していただくことが、何よりも重要だと私は考えております。

引き続き、国に対しては、透明性のある丁寧な説明と、市民の皆様が必要とする正確な情報の発信を強く求めてまいります。そして、私自身も、皆様の声に真摯に耳を傾け、その想いをしっかりと汲み取り、国に伝えてまいります。

このあと、意見交換の時間を設けさせていただきます。

どうぞ忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。